文書分類番号	00	09	03	002	永年	起案	平成	年	月	日	決裁	平成	年	月	日
議長	副議長	局長	副主幹	係長	主査	担当							文書取扱主任		

第 6 回 議 会 改 革 特 別 委 員 会 会 議 録

開催年月日	平成29年3月7日(火曜日)	開会13時33分	閉会15時06分
開催場所	第一委員会室		
出席委員	清水、山本、堀、安楽、本間、木下、柴田	事務局	竹谷事務局長
	議長、副議長		菊田副主幹
欠席委員	関藤		平川係長
説明員	なし	議件	別紙のとおり
議 事 の 概 要	1 分科会の進捗状況について		
	(1) 第1分科会について		
	(2) 第2分科会について		
	・各分科会の副座長から説明を受け、委員間で協議を行った。		
	・第1分科会の報告案件のうち、意見交換会については、次回委員会において、協議することとした。		
	・第2分科会の報告案件のうち、本会議主義と委員会主義については、次回委員会において、協議することとした。		
	・議長から第1分科会及び第2分科会の報告に対して、発言があった。		
	2 諮問事項の中間答申について		
	・諮問事項の中間答申について、委員長からの説明のとおり確認した。		
	3 その他		
	なし。		
4 次回委員会の日程について			
正副委員長に一任することに決定した。			
上記記載のとおり相違ない。 議会改革特別委員長 清水雅人 ㊞			

第6回 議会改革特別委員会

日 時 平成29年3月7日(火)

13時30分

場 所 第一委員会室

○ 開 会

○ 委員長挨拶(委員動静)

○ 議長挨拶

1 分科会の進捗状況について

(1) 第1分科会について

(2) 第2分科会について

2 諮問事項の中間答申について

3 その他

4 次回委員会の日程について

○ 閉 会

第6回 議会改革特別委員会

H29.3.7 (火)13:30～

第一委員会室

開 会 13:33

委員長 第6回議会改革特別委員会を開会します。

委員動静報告

委員長 委員は関藤委員から欠席の申し出があります。また、議長、副議長の出席をいただいております。傍聴として、館内、東元議員が出席しております。

議長挨拶

委員長 議長からご挨拶をいただきたいと思います。

議長 それでは、今委員長のお許しをいただきましたので、私のほうから一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

この議会改革特別委員会、平成27年6月23日、第1回議会改革特別委員会からきょうを数えまして第6回ということで、その間には第1分科会、第2分科会ということで分科会も設置をしていただき、それぞれ5回ほどの会議を経てきょうのこの日を迎えていると伺っております。平成27年6月23日に諮問をさせていただいて以来、皆様方には精力的にご協議を賜りましたことに対しまして、私の立場から感謝と御礼を申し上げたいと思います。

それでは、本日の進捗状況並びに中間答申ということでどうぞよろしくお願い申し上げます。

1 分科会の進捗状況について

委員長 まず、分科会の進捗状況ということで、それぞれの分科会の副座長からご報告をいただいて、それで特別委員会の中で十分な議論をするということを行いたいと思います。

それでは、第1分科会の木下副座長、よろしくお願いいたします。

(1) 第1分科会について

木 下 第1分科会につきまして進捗状況を申し上げますけれども、まず1番目に開催経過につきましては前回の委員会以降記載のとおり2回の分科会を実施しました。

それと、協議内容につきましては、前回の委員会で報告したとおり、通常の常任委員会を委員会室から外に出向いて開催する移動常任委員会についてはルール化しないこととしましたが、一方これまでも開催実績がある委員会としての現地調査と位置づけられる意見交換会については各常任委員会を主体として積極的に開催していくべきと確認し、そのルールづくりに取り組みました。ルールづくりに当たりましては、道内各市議会の状況の調査、また議員会の視察を活用して、今回モデルとした登別市議会の議会改革についての研修、さらには各常任委員会委員長とのヒアリングを実施し、「滝川市議会議員と市民等による意見交換会に関する要領(案)」をまとめました。これにつきましては、この後④で説明いたします。議会報告会の開催につきましては、個別の協議は行っていないですが、意見交換会の議論に絡み、報告会で何を報告するのか、単なる陳情会になってしまうのではないかと、議会側で、市政で課題となっていることなどをテーマとし、対象となる市民や団体を絞り込み、意見交換をし、その意見を政策に反映させていくべきと、これは意見交換会のことですが、このような意見が出され、現時点において議会報告会についての協議は終結する、開

催しないことを確認いたしました。

今後の進め方につきましては、滝川市議会議員と市民等による意見交換会に関する要領案について本委員会でご決定いただき、議長に対し答申をしたいと考えています。議会報告会については、先ほど申し上げたとおり協議を終結したいと考えています。議員間討議につきましては、前期の本委員会において導入することを決定しているため、その方法等について協議を進めていきます。反問権の付与については、協議を進めていきます。議会基本条例の検討については、以前も申し上げたとおり条例ありきではなく、議員間討議、反問権の付与を協議した上で最終的に条例の必要性について検討したいと考えています。滝川市議会議員と市民等による意見交換会に関する要領案について別紙の資料をごらん願います。まず、第1条、目的ですけれども、市民に開かれた議会としての位置づけと市民の声を市政の課題解決などのため政策に結びつけることを目的とする。

それから、第2条の意見交換会、通常の常任委員会の開催ではないが、常任委員会の所管事務調査と位置づけ、各常任委員会が積極的に取り組む意味で毎年開催することを基本とする。

第2項、広く市民に募集せず、各常任委員会で決めたテーマに沿った相手を選定し、委員会室を出て意見交換をする。所管事務調査の位置づけにより、あらかじめ議長に通知しなければならない。会議規則第93条です。

次、第3項、全議員が共通認識できるよう開催前に議運に報告する。

第4項、委員会報告として議長に提出しなければならない。会議規則第98条。

第5項、結果についても全議員が共通認識できるよう議運に報告する。

意見等の政策化として、第3条、各常任委員会のみならず、全議員が意見交換での意見等を踏まえ、政策に結びつけるよう努める。

実施結果の公表として、第4条、実施結果については相手の意向を確認した上で公表することを基本とする。

第5条、この要領のほか必要な事項については議運で確認することとする。

委員長 今条文のほうを読んでいませんので、条文を読む時間を設けたいと思いますので、暫時休憩といたします。

休 憩 13:41

再 開 13:42

委員長 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

今の副座長からの報告に質疑、意見等をいただきたいと思います。

柴 田 そもそもわからないのです。年1回実施、毎年実施とか書いているのですけれども、この目的というのは多分先ほどの説明によれば市民の声を反映させるためにこちらから出向いて意見交換をして、それを政策に反映する。いつするのですか。いつ反映するのですか。例えば毎年やって再来年、それとも毎年やって次の年、それとも毎年やってその年にその政策を提案し、実現させるのか。いずれにしても、手法が異なります。例えばお金がくっついてくるものであれば、その年に実現しようと思えば、当然補正予算を組んでいかなければいけない、その財源をどこから持ってくるのかを議員が主体的に行うのか、あるいは次年度ということであれば、政策づくりの期間を差し引いて意見交換会をいつごろに開くのかということ極めて縛りがかかります。当然次年度においてその政策を提案していくということになれば、行政側が提案するのか、あるいは

議会側が提案するのかということになりますけれども、新年度予算であれば議会側ではない、理事者側が提案するということになってくるのです。そこら辺がこれだけではよくわからないので、どういう議論がなされたのか少し聞かせていただきたいと思います。

委員長
木下

第1分科会副座長。

まず、前回の本委員会、10月12日なのですけれども、報告したとおり移動常任委員会はルール化しないということになりまして、先ほども言いましたように外に出て意見交換会をするということで大体決まりました。それで、今柴田委員から言われたとおり、私たちの考えについては余り予算に反映するとか、そういうことまでは突っ込んで話さなかったのですけれども、ただ報告会ということの位置づけは大体決まったのです。そして各常任委員会の3常任委員長をお呼びしてお話しした中では年1回意見交換会を必ずするということが大体決まったという形なのですけれども、私の中では予算に反映するとか、そういうことまでは確認はとっていないような気がいたしました。

本問

まず、先ほど柴田委員がおっしゃった内容につきましては、多分物すごく多様だと思うのです。そのことを規定するのは、実は無理なのではないかと思う中で、この意見交換会を行う上で、そのアウトプットをどうやってやったらいいかということについて実は結構悩んだところではあるのです。この中の意見等の政策化というところが非常にポイントになると思うのですけれども、この中ではよりシンプルに政策提言及び政策立案に努めるものとする。多分常任委員会で意見が一つになってアウトプットできることはそんなに期待できるものではないのかもしれないので、ここでは議員はということから始まっているのは個人個人でもいいし、場合によっては常任委員会でもいいし、全体にもなるかもしれないということを含んでいる。政策提言及び政策立案というのは、政策提言というのはいずれにしても市長部局なり教育部局なりに提言をしていくことだと捉えられると思いますし、政策立案は個人なり常任委員会なりで立案したものを提案していくということになるものということとアウトプットはこの程度にしたということが1つと、それと先ほど副座長がおっしゃった意見交換会の毎年1回はやるということについても議論しました。それで、この中の文言の使い分けというのが実はありまして、しなければならないとしているものは必ずするものという定義でこの要領はつくっています。それと、するものとするというのは、原則するものになっているということなので、絶対やらなければならないということにまではならないほうがいいのではないかという議論の結論がこの中には表現されているというようなことでございますが、いかがでしょうか。

柴田

この目的にはっきり書いてあります。市政の課題解決及び施策の推進に当たり、市民及び各種団体との対話を通じて市民の声を政策に反映するために実施する滝川市議会議員と市民等による意見交換会と書いてあるのです。一番大事なことは、聞き放しだったら、こんな交換会なんて1年やったら、それで終わるのです。政策を立案していくのだという考えを持ってこの交換会を実施するとすると、こんな甘い考えではできないのです。非常に中途半端になってしまう。だから、そこが非常に重要なのではないかと。意見交換会は、少なくとも各常任委員会で1度実施して、その常任委員会がその交換会に出席して意見を述べた方たちに私どもの委員会はこの政策立案に取り組みましたが、

こう実現できましたと言うのか、あるいはこういったことで実現できなかったということを例えば次の年に報告するとか、そこまでいかないただやればいいのかということになってしまうので、そこら辺はしっかりお考えがあるのかどうかを聞いているのです。

本 間

一応自分の思ったことを言います。まさにおっしゃるとおりです。ですから、いずれにしてもこの意見交換会というものは、こういうことを進めていきたいのではないかとということを明確にした上で相手を定めて、そのテーマに基づいて話をするので、当然どのようにするか考えをまとめたとか、そういう報告は多分必要になるのだろうなど僕はイメージとしては持っていましたけれども、要するにこの中にその辺のことを全てちりばめてはいないということもありますし、多分全分科会の委員がそのように思っているとは限らないかもしれないです。おっしゃるとおりだとは思いますが。

柴 田

何か、ぬかにくぎなのです。何をしたいのかということなのです。だから、中途半端にやったら、かえって議会に対する不信を招くだけでしょう。だから、先ほど本間委員がおっしゃった意見等の政策化、第3条、これは努めるものとするとして書いてあるのです。これは、しなくてもいいと読めるのです。だから、それだったら本当にいいのですかと、逆にはね返りが議会に来るのではないのでしょうかというところが私は非常に気になるなど。それで、もしこれをもっと詰めてやっていくのであれば、先ほど申しあげました前回の意見交換会で出たこの意見については委員会として取り上げた、あるいは取り上げなかった、なぜ取り上げなかった、取り上げたけれども、結果的に実現できなかった、なぜ実現できなかった、結果的に実現できましたというそのストーリーも含めてやはり意見交換会の翌年の意見交換会なり、その年にもう一回やるのかどうか、各常任委員会で考えるのですから、そういうこともきちんとこの中に入れておかなければ何のことなのかと、この意見交換会はということになりはしないかという考えです。ですから、もっとこれを練ってもらわないと、本当に政策を聞いて実現ができません。毎年のように実現ができない、実現できないといったら、何のためにこれを行っているのだと市民から滝川市議会がたたかれる極めて大きい原因になり得ると思いますので、私ははっきり言ってまだこのことについて結論を得るなんていうのは本当に5年、10年早いのではないかな、早いというよりは危険だなという感じがしてならないのですけれども、委員長、どう思いますか。

委 員 長

今話されたことというのは、第1分科会ではかなりのところまでは話しているのですが、柴田委員が最後に言われた要するに政策化できるのかどうかということ常任委員会として文章化するというか、まとめるというか、そこについてはかなり難しいのではないかと議論がされたのです。ですから、柴田委員の言われていることについては、そういう高い目標を持ちたいなという共通点はあったのですけれども、現実的には常任委員会としては、実現は難しいと。ただし、こういう理由で実現できる、できないというようなことはまず1つは可能だということと、それと最初第3条については常任委員長はとか、常任委員会はとか、あるいは議長はとか、政策化について誰が責任を負うのだという議論が相当されました。結論が議員はということと、議員個人、常任委員会、あるいは会派、いろんな立場で政策化できると。しかし、できるということとするというのでは相当な落差があるので、柴田委員の言われたことはもっとも

だし、そこについて具体化した要領案にするということは私も必要かなとは思いますが。それで、私の案としては、ピンポイントで今のところ異論が出されているので、これについては第1分科会をもう一回開いてやる、あるいはこの特別委員会でみんなで議論する、そのピンポイントについて、どちらかで議論をもう少し重ねないとだめではないかなと思います。

本 間

実は、当初こういうことをやってはどうかという話の中から結局やるという中でルールづくりをしましょうということになってしまって、結局そのルールづくりの議論の中から本質を見ていけばいいのにもかかわらず、実はそこには戻っていかなかったという議論の流れがあると思うのです。ですから、要するにその中にいなかった柴田委員がそういうふうにおっしゃるのはすごく伝わってくるのです。だから、そういうことができないにもかかわらず、これはやるべきなのかということなので、多分このことをやるかやらないかの議論だと思うのです。ピンポイント云々とかということではなくて、やはりこれはそういうことでなければやってはいけないことなのかどうなのかということ突き詰める必要があるのだろうと僕は認識しましたので、そういう議論にしていだければと思います。

柴 田

私も別に先ほど委員長が言ったピンポイントではないのです。そもそもやるのかやらないかのところにまで出てくる、問題が生じていくのだろうと。だから、これを本当に何のためにやるのか、政策提案を受けて我々がその実現のために努力をして、その結果できました、できませんでした、それをまたホームページで出して報告する、あるいは次のそういう会で報告すると、そういうことにするのか、あるいは単純に市民の声を聞くだけなのだと、それで開いたよ、聞いたよ、よかったねとホームページに載せるのか、どっちなのですか。もし仮に前段だとしたら、今ここで簡単に結論が出るような話ではないと。仮に市民の声を単なる聞く会というのであれば、各常任委員会ごとに毎年義務づけるような話でもないということになるのです。だから、そこをどうなのですかということをお聞きしたい。今後特別委員会で議論していくのだったら、議論していくのはいいのですけれども、そこがはっきりしないと全くこの意見交換会というのは本当に名のとおり意見交換会で終わってしまうのではないかと思います。

本 間

基本的には、例えば議会報告会。特に議会報告会なんてさっき言った後段みたいな話ではないですか。だから、そんなものではないもので要するに議会として市民とかかわっていくというか、その中で最も可能性があるのはこれなのだろうという程度の話なので、多分、もう少しそういった意味で議論を深めるべきだとさらに認識しました。

柴 田

お考えになってやろうとしたことは、私は認めるのです。決して悪いことではない。ただ、詰めに詰めない大変な状況を呼ぶということなのです。僕は、これを今いろいろ読んでいて思ったのですけれども、意見交換会ではなくて、全議員による意見聴取の会のような市民の方に直接今の大きな問題、滝川市の難問を議会が説明をして市民からその問題に対する意見の集約を行うというような場、それは別に何かを決定するだとか、そういうことではないのですけれども、そういうふうなものにしていくのであれば、それはそれで、その1回で終わってしまう話。そういうことができるということであればいいのだけれども、毎年というところはやっぱり最初の私の疑問に戻ってしまうということなのです。

- 委員長 私が感じたのは、5回の分科会に参加しているような経緯があつてここにたどり着いた第1分科会のメンバーとこれを読んで柴田委員が言われたような受けとめ、多角的な見方、これが効果をどう発揮できるかというのについては、やっぱりこれはこれできちんと今までの分科会の議論と足していいものをつくり上げるといふことが大事だと思います。それで、23日の本会議までの議運でまとめたいという目標は一応持つてはいるのですが、それに間に合わない、でもきょうまずこういう形で見ていただいて1回目の議論をいただいたということですから、それまでの間にもう一度特別委員会を開催いたしまして、そこまでは柴田委員から言われたことも加味した形で第1分科会のメンバーで相談して変えて出すなりなんなり、次の特別委員会までにそういう形で調整してもう一度特別委員会でもむというふうに整理したいと思うのですが、いかがでしょうか。
- 本 間 もう第1分科会ではなくて、委員会でやってもらったほうがいいのではないかなと思うのです。今貴重なご意見いただきましたし、やっぱりそこら辺のところをもうちょっと深めていくためには同じメンバーで続けていく必要はないというか、違うほうがいいのではないかと思います。そして、ご質問をいただいた中でこれを23日までにといふのはあり得ない話だと思うので、もうちょっと議論を深めてまとめていただいたほうがいいと思います。
- 委員長 それでは、いずれにしても次回特別委員会でもう一度議論をすると。ただ、このまま次の特別委員会を迎えてもなかなか文言の問題も出てくるし、やはりたたき台というのが必要だと思うのです。次の特別委員会に出すたたき台については委員長、副委員長にご一任いただけますでしょうか。
- 本 間 たたき台って何ですか。要するにこの要領案を直すということか。今質疑された件というのは、そういうことだけではなくて、表題とこの内容から読み取れるものはそれぞれ違ったりもするかもしれないのですけれども、だからこそ柴田委員がおっしゃったことはなるほどと思うことがあると。なので、根本的にやるかやらないかということに対する例えばそういうことを題材とした意見をきょうも皆さんからいただいたりして先に進まないとならないのではないかなと思う。ただこれを直すことにエネルギーを費やして、要するにここから読み取れるものって結構あるわけだから、そのベースに立って皆さんから意見をもらったほうがいいのではないですか。
- 副委員長 第1の分については、第2の方はきょう見たということがありますので、もう一度これをたたき台に各会派にお持ち帰りをいただいて、各会派の中でまだこの特別委員会に参加されていない議員もいらっしゃるの、会派の中である程度提示をして、意見を持ち寄って、これをたたき台にそのまま、直す直さないではなく、それこそ柴田委員がおっしゃったように根本的な問題にもかかわってくると思いますので、やはり一度会派に持ち帰らせていただいたほうがよろしいのかなと思うのですけれども、委員長、いかがですか。
- 委員長 副委員長のほうからご提言があつたのは、十分な議論を検討すると、それは各会派でということとは広く議論をする必要があるだろうと、たたき台としてはまずこれで十分だろうということですから、私もそれはいい方向だなと思います。ただ、5回の分科会の中で柴田委員が言われたことについてはかなりいろいろ議論してきたことでもありますので、会派での協議には委員長、副委員長をぜひ参加をさせていただいてご説明をさせていただきたい。

休憩します。

休 憩 14:09

再 開 14:21

委員 長

休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

まず、この問題については、新たなたたき台ということではなく、きょう出された第1分科会の要領案、まずこれをたたき台にして次回の特別委員会に各委員の皆さんからのお考えを一人一人お伺いしたいと思います。その際きょう出されたいろんな各論については事務局のほうで整理をして、こういう議論がされたという概要をお渡ししたいと思います。そういうことで整理をしてよろしいでしょうか。

もっと言えというのであれば、期日、エンドは決めません。これは、次の委員会の行方によってはそれで終わることもあるだろうし、また展開が変われば次ということももちろんあるでしょうし、それについては柴田委員も言われたし、副委員長からもアドバイスもございました。それもつけ加えさせていただきます。そういったまとめでよろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

委員 長

それでは、第1分科会のほかの項目、この1枚目のペーパー、②の協議内容、これらについて質疑、ご意見があればお伺いいたします。

(なしの声あり)

委員 長

それでは、第1分科会については以上とします。

それでは、第2分科会について柴田副座長のほうからお願いいたします。

(2) 第2分科会について

柴 田

ペーパーに取りまとめたとおりであります。開催については、ごらんとおり。それで、先日理事者側との意見交換、これは委員会主義、本会議主義の意見交換を行ったところであります。何とか委員会主義のいいところを本会議主義を前提として取り入れようと思ったのですが、やはり委員会主義と本会議主義は水と油の関係で、それをなじませるということはほとんど不可能だと。要するに議案は、告示された後の本会議での議論しか不可能だと。議案が送付されていないのにその議案内容を審査するということは、これはやはり議会としてあり得ないことだなど。結論では、そういうことであります。

ただ、例えば本会議の迅速化、あるいは委員会でのやりとりをもっと奥深きもの、あるいは詳細にできないのかということなども理事者側ともいろいろ協議をさせていただきました。協議内容の本会議主義、委員会主義の終盤に書いてあるとおりなのでありますが、本会議の迅速化を図るために本会議での計数等の確認、要するに何年に幾らあったのだというような計数の確認等の質疑については、これは厳に慎んでいこうと。

その計数の確認等については、委員会で解明をしていくと。その委員会で解明するのは、議案にかかわっても当局側は用意しますよと、理事者側は計数的なものはいつも手元に置いてあるので、そういったことはお答えすることはやぶさかではないので、委員会で解明できるように議会側、そして理事者側、双方努力するということがこの2番目の点であります。

それで、3点目、これは今までもやっているということではあるのですが、重要案件については、これは当然議長の判断においてということでもありますけれども、委員会に付託するようになりたいということでもあります。それと、もう一

つ、なぜこれをここに3番目として書いたのか、これは委員会付託のことを書いたのです。委員会付託ではなくて、例えば重要案件については本会議に上程前の各委員会、それぞれの常任委員会に事前にさまざまな情報の提供を行ってご議論をいただいた上で議案として本会議に提案していただくと、そういうことで理事者側の確認をいただいておりますので、この3番目の案件については重要案件の取り扱いとして委員会付託を必ず行うようにするということと重要案件については常任委員会等へ事前の説明を行った上で議案として本会議に提出していく、こういうことを確認してきております。

それと、議員及び事務局職員の調査研究能力向上についてであります。議案等の審議のあり方を検討していく上では必要不可欠ではありますが、事務局は業務等において、あるいは議員は議員活動において能力向上に取り組むことで調査検討を終結する。何もやらないのかということなのですが、まず議員活動についてみずからの能力向上のために必要なことは議員個々で十分にやった上で、不足あるところについてまた議員の皆さんからご意見を頂戴してその後検討を行っていくということで、今ここで議員の能力向上のためにこれが絶対必要だというものをはっきり言って見当たりません。議論してもなかなか出てこないで、そういうことで調査検討は終結していきたいと思っております。

それから、常任委員会や特別委員会での政策提案については、これは現行においても政策提案はできると考えておりますので、今後とも積極的に政策提案をしていくことで調査検討を終結したいと考えております。

それと、議員の各常任委員会への複数所属等については、会派構成が5会派のうち2人会派が2会派の現状においては3常任委員会への複数所属は逆に2人会派以外の会派に対して不公平になるということもありますので、現在においても各常任委員会等については傍聴、あるいは委員外議員でも出席が可能でありますので、報告案件など確認できるため、いずれにしてもこの議員の各常任委員会への複数所属等についてはこれで調査検討を終結したいと考えているところでもあります。

委員長
本 問

それでは、今の報告について質疑、ご意見を伺います。

ちょっと細かいことになるかもしれませんが、質疑させていただきますが、本会議主義と委員会主義についてのⅠ、Ⅱ、Ⅲについてです。本会議の迅速化を図るため、本会議での計数の確認の審議は注意しなければならないということなので、委員会で解明するというにされているということなのだと思いますけれども、上の文章の中のやはり全ての議員に対して機会が均等に行われるということが実は大事なポイントだと、ここでは、思われるところとして委員外議員に対するシステムなのだけれども、先に全議員に対して全常任委員会の資料が配られていなければ多分このことはできないのではないかなと僕は思うのですけれども、どう思いますか。

要するに質疑内容が決まっています、それを表明することが求められる委員外議員というシステムになっています。そのシステムだと、いずれにしても計数の確認や内容確認については委員会で解明する場合には所属外の議員が何かを聞きたいと思っても確認はできないのではないかなと思うのですけれども、そこら辺のところについてどうなのか。要するに3人以上の会派だと多分いいのかもしれないです。2人会派だと、多分1カ所の資料が手に入らない可能性があるということになるか、そこら辺のところ、間違ったことを言っているかもし

れませんから、確認してください。

委員長
副委員長

それでは、第2分科会からお答えいただきたいと思います。

各委員会の資料については、事務局のほうに一応出席ということで出せば全員資料はいただける仕組みになっています。それとあと、委員外議員なのですが、各委員会、委員長の判断で何分間という制限をかけているところはありませんけれども、ほぼその時間で大体のことは聞けるのではないかなと私も感じておりますので、何でこんなことをやるかという、本会議で数字だけ聞いて確認して、はい、終わりますというのだけは理事者側は非常に避けていただきたいということで、結果的に数字を解明するために裏の部屋に行って課長職の皆さん方と書類をひっくり返したあげくに、はい、そうですかではせっかくの審議の時間が皆さんにもつたいないという話で、もしそういうことがあるのであれば委員会の中で幾らでも数字だけについてはお教えいたしますのでという話でございますので、そういった意味では本来本会議ではもっと出された議案について私は思うけれども、市長どうですか、部長どうですかという論議になったほうがいいのか、例えば隣の町でどうだから、こうだからという論議をしていくような議会であってほしいという第2分科会の思いもありますし、理事者側の思いもあったということでこういう形になっております。

本 間

いや、そんなことは言っていないです。だから、いずれにしてもこのことはすごくいいことだと思う上で確認をしておくべきであろうということなのだろうと思って、ただ多分傍聴ということで資料をもらって、それからでは委員外議員にしてくださいとかということの流れがあればいいということになるということで、いずれにしても今説明されたので、私は本会議の迅速化、計数の確認というのは本会議で行うのは非常に、計数の確認だけで行うのはやめたほうがいいと私も思いますので、この仕組みには賛成です。

安 樂

今お話ししているとおりののですけれども、計数の確認をして意図があつて次の質疑に行くのであればいいのです。ただ数を聞いて、はい、終わります、これは無駄というところでこの間そういう話になったということなので、その部分を委員会のほうで計数的には言いますということなのです。

本 間

計数の確認は、先ほどの副座長の説明では計数の確認については厳に慎むべきと説明されたので、ここには書いていないけれども説明の内容はそういう説明だったので、要するに本会議の迅速化を図ることが基本にあるとしたら、計数の確認はしないということになるのではないですか。

安 樂

中身によるのですけれども、やっぱり自分の意図していることがあつて質問するわけで、そこで必要な計数というのを示してもらって、それに対して次に進めていくというやり方もやっぱりあるのではないかなと。ただ数だけ聞いて、いいだけあれこれと数を教えてくださいと聞いて、はい、わかりました、終わりますというのだったら、それは迅速化には全然当てはまらないと思います。

本 間

同じ会派でこういう話が進んでいくとは、でもいい。これは、特に質疑のことだと思う。これは、通告している一般質問等については関係ないのですか。まず、1つそれを聞いてからまたお願いします。

柴 田

要するに通告質問ももちろんあるのです。同じことなのですけれども、例えば市政にかかわる数字、調べれば出てくる計数、ほとんど調べられるのです。例えば予算委員会でもそういった前年度の資料というのが参考資料として皆さんに配られていますから、よく予算委員会でそれは幾らかと聞いたら、そこに書

いてあるでしょうと言われることがあるのですけれども、そういったことのないような本会議での計数の取り扱い、だから理事者に聞かないとわからない計数であれば、同じ会派の安楽委員がおっしゃったようにそれは問題ないと思います。聞かなければわからないこと。ただ、聞かなくてもふだんからもらっている資料などで調べればわかることをわざわざ本会議の質疑で理事者側にして、その答えをもらってからまだ質疑するのならいいけれども、終わってしまうというのは、ちょっとそういうのはやはり時間の浪費としか言えませんよねと、だからそうならないように、もし計数がわからない、調査したいのであれば事前の委員会でわからない計数の確認やら何かはしていただいて、その上で本会議で通告質問をするなりなんなりをしていただきたいというのが理事者側の本会議迅速化に向けたお考えなので、そのとおりですねということであります。ちょっと休憩にします。

委員 長

休 憩 14:41

再 開 14:52

委員 長

休憩前に引き続き、会議を再開します。

それでは、本会議主義と委員会主義についてのⅠ、Ⅱ、ⅢのうちのⅠとⅡについては計数についてのことが書かれております。今これについてもいろんなご議論がありました。これについても次回の特別委員会で各委員からご意見をいただくということで、要するにこれについてのご意見を改めて整理した上でいただくということでもよろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

委員 長

3点目については、特に質疑、ご意見はないということでもよろしいでしょうか。

(なしの声あり)

委員 長

また、その他、下の丸3つについてはいかがでしょうか。

(なしの声あり)

委員 長

それでは、第2分科会の報告についても以上といたします。

引き続きまして、きょう議長、副議長にご出席をいただいておりますので、2年たった時点での議長諮問について、2年たっていることもございますので、さらに深いお話もいただけるのかなということで私たちが諮問について理解を深めるという意味で議長にきょうお話をいただきたいと思います。議長、よろしくお願ひいたします。

議 長

第1分科会、第2分科会ともに本当に精力的に協議を進めていただいて、きょうもまた中間的な報告の中でそれぞれ委員の皆さんから積極的なご議論をいただいたことは、私も特別委員会として本当にすばらしい協議をしていただいているなということで皆様方に本当に敬意を表したいと思います。

それで、私が常日ごろ考えていることの中に、実はこの第1回特別委員会のときにも同じような話をさせていただきました。今も議論になりましたけれども、私は本会議主義と委員会主義、この議論というものがどういう方向に向かっていくのかなというところを今の議論も聞きながら私なりに感じているところを述べさせていただきたいと思うのですが、私はやはり委員会が活性化をしているということが議会の活性化につながっていくのではないのかと常日ごろ感じております。それは、やはり事前審査というものが、私も本会議場で通告の範囲を超えているのか超えていないのか、例えば補正予算に対する質疑を聞ける範囲を超えているのかどうなのか、実に難しいというか、人それぞれ考え方も

あつて非常に難しいという中において委員会の告示前の事前審査、これも今ほどは計数のみにというような話もありましたけれども、実に難しいなというのが正直なところであります。実は、委員会を運営するのは委員長ですので、やはり委員長がきちんと判断をしていける、できればそういう議会運営というのが多分理想なのかなと、そんなふうにも思ったりするところがございます。それで、これが例えば委員会主義ですと、議案が上程をされて、そしてそのまま委員会に付託をされて、そして委員長の運営によって採決がされ、その採決の結果を本会議で報告の上、それに対して最終的に本会議で採決をします。この流れですと、事前審査どうのこうのということは多分全くなく、委員会の中で全ての質疑ができると考えると、やはりそのことも選択としてはあるのではないのかなと、そんなふうにも思っているところでもあります。

さらに、もう一つ言わせていただくと、今のうちの本会議主義での常任委員長の役割というのは、どちらかという而定例会にかかわっての委員長の役割というのは委員会を運営するということが主になるわけでございますけれども、委員会主義になることによって委員長としての採決までに至るいろんな場面でのご判断も出てくるということからすると、非常に委員長としての裁量権も幅が広がっていくというようなこともあつて、そういうところから委員会が活性化することで議会の活性化につながっていくのではなからうかと、そんなふうにも感じているところでございます。

それと、第1分科会の中では、先ほど来から意見交換会、私はきょうのこの皆様方の議論を聞いていまして、議員間討議ということも諮問の中にあります。まさにきょうのこの議論は議員間討議の最たる姿なのかなと考えておいて、こういうことがどんどん特別委員会に限らず、常任委員会等でもこういう議論がなされながら、皆様方それぞれが資質の向上、能力の向上につながっていく、そんな議会であつたらいいなと、そんなふうにも思っております。きょうは第1分科会、第2分科会ともに報告があつて、それに対する意見もあつて、またそれとは違う話にも聞かえるのかもしれないけれども、私なりに考えていることの一端を述べさせていただきました。

委員長

議長、ありがとうございます。

副議長からは何かございませんか。

(なしの声あり)

委員長

それでは、議長への質疑はありませんか。

(なしの声あり)

2 諮問事項の中間答申について

委員長

きょうの第1分科会、第2分科会の説明に対して整理、ほぼ一致できたこと、また議論をさらに深めなければならぬことなどがございました。2年度目の節目というところである程度の中間報告は必要だと思いますので、この諮問事項の中間答申についてという用紙がございしますが、それぞれ上からこれについては協議を終結するか、あるいは継続するかということについてきょうの時点で決められるものについては決めたいと思いますが、そういうことをご確認していただけますか。具体的に言うと、一つ一つ決をとっていくということです。それをやるにしても、まず今の話を聞いていたらわかるので、まずざつとやっていただければいいだけではないかと思っております。

本 間

委員長

委員長のほうでまとめてほしいということですので、それでは上のほうからい

きたいと思います。

まず、(1)、市民に開かれた議会ですが、議会報告会の開催、これについては協議終結としたいと思います。移動常任委員会の開催についても協議終結としたいと思います。政務活動費のあり方の検討については、当初から分科会ではなく特別委員会で必要な時期に行うということだったわけですが、今般議会運営委員会におきまして十分ご議論、決定をされたということで、これについても一応形式的ではありますが、協議終結。

(2)については、多様な議論の場を形成する議会、議会基本条例の検討については協議継続、政策立案能力の向上について、議員及び事務局職員の調査研究能力向上の検討については協議終結、常任委員会、特別委員会での政策提案などについても協議終結、議員個々の資質の向上について、議員間討議については協議継続、議会の活性化について、議員の各常任委員会への複数所属の検討についても協議終結、議長、副議長の会派離脱の検討につきましては、諮問をされてはいるのですが、これまで議論していないことです。これについては、次回の特別委員会も予定されていますので、保留ということで、反問権の付与の検討は協議継続、本会議主義と委員会主義の検討、これについても協議継続。移動常任委員会の開催というのがございます。これは、形を変えて今の意見交換会ということになっておりますので、継続です。ということで、私のほうからまずたたき台として述べさせていただきました。皆さんのご意見を伺います。

(異議なしの声あり)

委員長

それでは、今の中身で次の特別委員会に進むものもあると思いますが、きょうの段階では今の確認といたします。

次に、今後の進め方なのですが、まず次の特別委員会で重要な点が2つ残っております。これについての次回委員会の日程については委員長、副委員長にご一任いただくということによろしいですか。

(異議なしの声あり)

3 その他

委員長

それでは、委員から何かありますか。

(なしの声あり)

委員長

事務局から何かありますか。

(なしの声あり)

4 次回委員会の日程について

委員長

それでは、次回委員会の日程については委員長、副委員長に一任されましたので、以上で第6回議会改革特別委員会を終了します。

閉 会 15:06